

1 小学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				問題形式			正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況			
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用						社会的な事象についての知識・理解	選択式	短答式
1	(1) 地図から、東西南北の方位を読み取ることができる	○					○		○			81.2	0.3	85	65	
1	(2)ア 主な地図記号を理解している(消防署)	○						○	○			88.5	1.0	80	60	◎
1	(2)イ 主な地図記号を理解している(神社)	○						○	○			91.7	0.3	80	60	◎
1	(3) 地図から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○					○			○	○	49.8	2.5	75	55	▼
2	(1) 資料1 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(駐車場の工夫)		○					○	○			93.9	0.1	80	60	◎
2	(1) 資料2 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(陳列の工夫)		○					○	○			92.4	0.2	80	60	◎
2	(2) 品物のシールから、情報を読み取ることができる		○					○	○			86.0	0.4	75	55	◎
2	(3) 販売の仕事に見られる工夫について、説明することができる		○				○			○	○	47.2	2.8	70	50	▼
3	(1) ごみの処理に関する疑問について、適切に調べることができる			○				○	○			74.4	0.6	80	60	
3	(2) 資料を基に、ごみの出し方について考えることができる			○			○			○		38.6	0.9	70	50	▼
3	(3)ア 清掃工場の仕組みを理解している(ごみピット)			○					○	○		74.9	0.9	80	60	
3	(3)イ 清掃工場の仕組みを理解している(中央制御室)			○					○	○		85.8	1.1	80	60	◎
4	(1)ア グラフから、水の使用量の変化について読み取ることができる			○				○		○		82.2	2.2	80	60	◎
4	(1)イ グラフから、水の使われ方について読み取ることができる			○				○		○		80.9	2.5	80	60	◎
4	(2)ア 浄水場の名称を、理解している			○				○		○		62.6	4.9	80	60	
4	(2)イ 浄水場の働きを、理解している			○				○		○		92.3	2.7	80	60	◎
4	(3) 学校でできる節水の方法を考えることができる			○			○			○	○	82.8	2.9	75	55	◎
5	(1) 事故や事件の防止に努める警察の働きを理解している				○			○	○			85.4	0.6	85	65	◎
5	(2) 資料を基に、事故を防ぐ施設の働きについて説明することができる				○		○			○	○	86.4	2.5	75	55	◎
5	(3) 資料を基に、地域で行っている子供の安全を守るための工夫について考えることができる				○		○			○		50.4	3.8	75	55	▼
6	(1)① 火事が起きたときに、連絡する電話番号を理解している				○			○	○			70.5	1.3	85	65	
6	(1)② 火事が起きたときに、通信指令室から警察署に連絡する理由について理解している				○			○	○			73.3	1.2	80	60	
6	(2) 資料を基に、学校における消火器設置の目的について考えることができる				○		○			○	○	72.9	3.6	70	50	◎
7	(1) ①② 道具の移り変わりを理解している					○		○	○			90.4	1.2	85	65	◎
7	(2) 昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる					○	○			○	○	70.6	3.4	75	55	

② 小学5年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子と国民生活	工業の様子と国民生活	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的な事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している(※)	○					○	○			77.3	1.9	80	60	
1	(2)①	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(背振山地)	○					○	○			90.4	0.2	80	60	◎
1	(2)②	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○					○	○			57.5	0.3	80	60	▼
1	(2)③	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○					○	○			82.3	0.3	80	60	◎
1	(2)④	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○					○	○			61.9	0.3	80	60	
1	(3)①	都道府県の名称と位置を理解している(大分県)	○					○	○			63.2	2.9	85	65	▼
1	(3)②	都道府県の名称と位置を理解している(宮崎県)	○					○	○			62.8	2.8	85	65	▼
2	(1)	世界の大陸の名称と位置を理解している		○				○	○			72.5	0.2	85	65	
2	(2)	日本の位置を地図から読み取ることができる		○				○	○			59.0	0.3	80	60	▼
2	(3)ア	日本が抱える領土問題を理解している(北方領土)		○				○	○			57.2	6.1	85	65	▼
2	(3)イ	日本が抱える領土問題を理解している(尖閣諸島)		○				○	○			35.1	7.1	80	60	▼
2	(4)	沖ノ鳥島が属する都道府県が東京都であることを理解している		○				○	○			32.4	8.1	80	60	▼
3	(1)	資料から、米作りの盛んな都道府県を読み取ることができる		○				○	○			79.9	0.3	80	60	
3	(2)	米作りの1年間の流れを理解している		○				○	○			84.1	0.5	80	60	◎
3	(3)	農業以外にも収入を得ている農家が兼業農家であることを理解している		○				○	○			18.1	12.2	80	60	▼
3	(4)	資料を基に、品種改良をする理由に着目した質問を考えることができる		○		○				○	○	42.0	8.4	75	55	▼
4	(1)	水深200mくらいまでの海底の傾斜がゆるやかな海が大陸棚であることを理解している		○				○	○			38.6	10.3	80	60	▼
4	(2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる		○				○	○			62.3	0.8	80	60	
4	(3)	資料を基に、水産資源確保のための200海里水域について、領土と関連付けて説明することができる		○	○			○		○	○	39.7	11.9	65	45	▼
4	(4)	水産資源保護の取り組みについて理解している		○				○		○		49.5	4.5	75	55	▼
5	(1)	食料自給率と輸入額の変化の様子を表すグラフを選択することができる		○				○	○			58.1	1.1	80	60	▼
5	(2)	資料から、自給率の低い食料を読み取ることができる		○				○	○			69.0	2.9	80	60	
5	(3)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる		○				○		○	○	41.3	5.3	70	50	▼
5	(4)	地産地消の取り組みについて理解している		○				○		○		55.2	10.3	70	50	
6	(1)	自動車の生産に関する疑問について、適切に調べることができる				○		○	○			80.9	1.2	80	60	◎
6	(2)	自動車の生産過程を、資料から読み取ることができる				○		○	○			91.3	1.9	80	60	◎
6	(3)	資料を基に、運搬船で輸送する理由について説明することができる				○	○			○	○	28.6	5.6	70	50	▼
6	(4)	自動車の現地生産の目的について理解している				○		○	○			63.7	2.0	80	60	
6	(5)	資料を基に、これからの自動車工業の在り方について自分の考えを説明することができる				○	○			○	○	62.1	4.4	70	50	

(※) 平成24・25・26年度小学校第5学年調査と同一問題

③ 小学6年生

[表3] 設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			活用に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用技能	社会的事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1 (1)あ	資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○		○			○				89.2	1.1	85	65	◎
1 (1)い	資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○		○			○				68.3	1.3	80	60	
1 (2)	日本の気候の特色を理解している	○				○	○				76.4	0	80	60	
1 (3)	資料を基に、那覇市や十日町市の気温と降水量の特徴について考えることができる	○		○			○				55.5	0.3	70	50	
2 (1)	縄文時代の人々が貝殻や骨などを捨てた場所の遺跡が貝塚であることを理解している		○			○		○			67.6	5.3	85	65	
2 (2)	資料から、縄文土器の特徴を読み取ることができる		○		○		○				90.2	0.1	85	65	◎
2 (3)	米づくりが始まったことによる人々の生活の変化を理解している		○			○		○			89.9	1.2	80	60	◎
3 (1)	冠位十二階の制度を定めたり、法隆寺を建立した人物が聖徳太子であることを理解している		○			○		○			94.5	1.3	85	65	◎
3 (2)	資料から、十七条の憲法が、役人が守るべききまりであることを読み取ることができる		○				○				49.6	0.1	80	60	▼
3 (3)ア	仏教の力によって、国づくりを進めた聖武天皇の考えについて理解している		○				○		○		80.4	1.2	80	60	◎
3 (3)イ	不安な世の中を国分寺や大仏造りによって、安定させようとした聖武天皇の願いについて理解している		○			○			○		85.5	2.4	80	60	◎
4 (1)	資料から、金閣を選ぶことができる		○		○		○				98.9	0.1	85	65	◎
4 (2)	資料から、書院造の特徴を読み取ることができる		○		○			○			75.5	1.0	80	60	
4 (3)	資料を基に、室町時代の文化の特色について考えることができる		○	○				○	○		78.6	3.8	75	55	◎
5 (1)	資料から、長篠の戦いで使用された武器が鉄砲であることを読み取ることができる		○		○			○			94.5	0.5	80	60	◎
5 (2)	資料を基に、検地と刀狩が社会に与えた影響について説明することができる		○	○					○	○	26.6	6.1	65	45	▼
5 (3)④⑤	安土・桃山時代から江戸時代初期までの出来事について理解している		○			○	○				48.8	0.3	85	65	▼
6 (1)	発言の内容を基に、伊能忠敬の業績についての学習問題を考えることができる		○	○					○	○	34.1	2.2	70	50	▼
6 (2)①	国学の発展に貢献した人物が本居宣長であることを理解している		○			○	○				78.2	0.3	85	65	
6 (2)②	解体新書を記した人物の一人が杉田玄白であることを理解している		○			○	○				89.3	0.2	85	65	◎
6 (2)③	歌舞伎や人形浄瑠璃の作者が近松門左衛門であることを理解している		○			○	○				80.0	0.2	85	65	
6 (3)	踏絵を行った目的について理解している		○			○			○		70.3	4.9	80	60	
7 (1)アイ	資料を基に、岩倉使節団と遣隋使や遣唐使の共通の目的について考えることができる		○	○					○		23.9	17.9	75	55	▼
7 (2)	資料を基に、ノルマントン号事件の問題点について説明することができる		○	○					○	○	34.9	5.5	65	45	▼
7 (3)③	不平等条約改正に力を尽くした陸奥宗光について理解している		○			○	○				57.5	0.4	80	60	▼
7 (3)④	不平等条約改正に力を尽くした小村寿太郎について理解している		○			○	○				57.9	0.8	80	60	▼
7 (4)	資料を基に、明治政府の政策の目的について考えることができる		○	○					○		37.0	5.2	80	60	▼
8 (1)	資料から、満州の位置を読み取ることができる		○		○		○				74.8	0.4	80	60	
8 (2)	資料を基に、国民生活が制限された理由について説明することができる		○	○					○	○	25.6	4.9	70	50	▼
8 (3)	長崎とともに原爆を投下された場所が、広島であることを理解している		○			○		○			97.6	0.8	85	65	◎
8 (4)	終戦直前に、満州や樺太南部、千島列島にソビエト連邦が攻め込んできたことを理解している		○			○		○			25.1	2.0	80	60	▼

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年において、教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「観察・資料活用の技能」は、「おおむね達成」の基準を上回っており、小学4年生は「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、グラフ12、グラフ20]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」は、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ12、グラフ20]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」については、到達基準を1として正答率を算出し同一児童で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より共に下回っている。小学5年生は、全ての評価の観点が下回っている。[グラフ15、グラフ23]
- 全ての学年において、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えて説明する記述式の設問については課題が見られる。[表1、表2、表3]

② 小学4年生

- 評価の観点「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は81.5で、「十分達成」の基準81.5と等しい値である。[グラフ5]
- 評価の観点「観察・資料活用の技能」の正答率は84.4で、「十分達成」の基準80.0を4.4ポイント上回っている。[グラフ5]
- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回っている。中でも、「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ6]
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」について、到達基準を1として正答率を算出し同一学年で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ7]
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的な事象の特色や相互の関連について考え、説明すること」を問う設問の正答率は50.4で、「おおむね達成」の基準55.0を4.6ポイント下回っている。[表1]（4年生問5(3)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問5 (3)	資料を基に、地域で行っている子供の安全を守るための工夫について考えることができる (記述式)	「子供110番の家」と「子供110番の店」の設置状況と設置されている目的とを関連付けて考える。	50.4	3.8	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

児童の経験上、「子供110番の家」や「子供110番の店」が設置されている目的については理解していると思われる。設置されている目的と資料から読み取った情報とを関連付けて説明することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「子供110番の家」や「子供110番の店」が設置されている目的を教師が最初に説明するのではなく、資料から「見えるもの(様子や事実)」を基にして解釈する活動を通して、児童の考えから目的を導き出すような指導が大切である。その際「なぜ、このようにたくさん設

置されているの？」といったような発問を通して、子供の安全を守るための工夫について考えさせる指導が効果的である。

③ 小学5年生

○ 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」において、「自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解していること」を問う設問の正答率は、同一学年で経年比較をすると、平成24年度調査から平成27年度[12月調査]にかけて増加している。[表2] (参考：平成24年度63.1、平成25年度65.2、平成26年度68.4、平成27年度77.3)
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」については、「おおむね達成」の基準を共に下回っている。[グラフ12]
● 内容・領域「国土の様子」「食料生産の様子」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ13]
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的事象の背景などを説明するために、知識・技能などを活用すること」を問う設問の正答率は42.0で、「おおむね達成」の基準55.0を13.0ポイント下回っている。[表2]（5年生問3(4)）
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「実生活の様々な場面において、知識・技能などを活用すること」を問う設問の正答率は41.3で、「おおむね達成」の基準50.0を8.7ポイント下回っている。[表2]（5年生問5(3)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問3 (4)	資料を基に、品種改良をする理由に着目した質問を考えることができる (記述式)	資料と農業試験研究センターの方からの答えを基に、質問した内容を考える。	42.0	8.4	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

資料から品種改良を経て「さがびより」ができたことを読み取ることはできるが、品種改良の過程と農業試験研究センターの方の答えに書かれている品種改良の目的とを関連付けて考えることに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

品種改良の資料を基に、「なぜ品種改良をするのだろう？」とその目的や理由について考えさせる指導が大切である。更に、児童の反応に対して「どの資料からそのように考えたの？」など、考えの根拠を問い直す発問をすることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問5 (3)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる (記述式)	資料を基に「輸入に依存すると困る」という考えの理由を説明する。	41.3	5.3	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

問5(1)「食糧自給率と輸入額の変化の様子を表すグラフを選択すること」を問う設問の正答率が58.1で、「おおむね達成」の基準60.0を1.9ポイント下回っていたことから、資料が

ら必要な情報を読み取ったり、必要な資料を選択したりすることが難しかったためと考えられる。更に資料から読み取った情報を「輸入に依存すると困る」という考えと関連付けて考えることに課題があったと考えられる。

・ **改善・充実に向けて**

資料から必要な情報を読み取り、その情報を基に考えをもたせる指導が大切である。読み取った情報と考えとを区別して、自分の言葉で記述させる指導が効果的である。例えば、「私は～だと考えます」の後に、「なぜなら資料を見ると、～ことが分かります。このことから～と考えるからです」と理由を付けて表現させる指導が考えられる。以上のような指導を、1つの資料から複数の資料へと段階的に行っていくことが大切である。

④ 小学6年生

- 平成25年度（4月実施）と平成26年度〔12月調査〕において課題として挙げられていた評価の観点「社会的事象についての知識・理解」の正答率は73.3で、「おおむね達成」の基準62.3を11.0ポイント上回っている。到達基準を1として正答率を算出し同一学年で経年比較をすると、平成25年度（4月実施）から平成27年度〔12月調査〕にかけて改善が見られる。〔グラフ20、グラフ22〕
- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」について、到達基準を1として正答率を算出し同一児童で経年比較をすると、平成26年度〔12月調査〕より上回っている。〔グラフ23〕
- 平成26年度〔12月調査〕において課題として挙げられていた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」の正答率は39.5で、「おおむね達成」の基準51.3を11.8ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。〔グラフ20〕
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「学習問題を見いだすこと」を問う設問の正答率は34.1で、「おおむね達成」の基準50.0を15.9ポイント下回っている。〔表3〕（6年生問6(1)）
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的事象の意味について考え、説明すること」を問う設問の正答率は37.0で、「おおむね達成」の基準60.0を23.0ポイント下回っている。〔表3〕（6年生問7(4)）

・ **課題が見られる設問について**

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
6年生 問6 (1)	発言の内容を基に、伊能忠敬の業績についての学習問題を考えることができる (記述式)	資料を基に、地図の正確さと地図をつくる方法に着目した学習問題を考える。	34.1	2.2	70.0	50.0

・ **誤答・無解答の原因として考えられること**

2つの地図を比較し、グループの会話の中に書かれている気付きや疑問、知識を関連付けて考えることができなかったためと考えられる。また、気付きや疑問を基に、単元の学習問題や本時のめあてを設定するという学習経験が不足していることも考えられる。

・ **改善・充実に向けて**

単元の学習問題や本時のめあてを設定する際に、資料を基に気付きや疑問をもたせることが大切である。資料を見比べさせ、「似ている」「正確だ」「どのようにしてつくったのだろう」など、気付きや疑問を出させながら、児童と共に単元の学習問題を設定することで、その後

の主体的な問題解決的な学習につながっていくと考える。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問7 (4)	資料を基に、明治政府の政策の目的について考えることができる (記述式)	明治政府の政策を総合的に捉え、明治政府がめざした国づくりについて考える。	37.0	5.2	80.0	60.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

複数の政策の目的を総合的に考えて説明することや解答の条件に合わせて記述することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

単元の学習問題や本時のめあてに対して考えをまとめ、自分なりの言葉で記述させる経験をさせていくことが大切である。まとめを記述させる際は、「どのような国をめざして、政策を進めたのだろうか」というめあての授業であれば、「〇〇な国」と整理してまとめさせるなど、問いに対応する記述をさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 児童の主体的な学びにするような指導の工夫を行うこと (6年生問6(1))

- 児童の主体的な学びにするためには、単元の学習問題や本時のめあてを児童と共に設定するような指導の工夫を行う必要がある。ポイントは、社会的事象に対する児童の気付きや疑問を基に、児童の言葉で単元の学習問題や本時のめあてを設定することである。単元の学習問題や本時のめあてを自分たちでつくったという意識をもたせることで、児童が自分の問題として捉えることができ、その後の追究意欲の高まりにつながっていく。

② 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えるような指導の工夫を行うこと (4年生問5(3)、5年生問3(4)、5年生問5(3)、6年生問6(1)、6年生問7(4))

- 児童が社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えるようにするためには、「なぜ(何のために)～しているのか」「どのように～しているのか」といった「why」や「how」の思考発問をすることが大切である。その際、児童の反応に対して、以下の3つの思考(比較、関連付け、総合)を促す問い返しをすると効果的である。
 - 「…よりも～」 「同じところは～」 「…が違う」 など、いくつかの情報から分かったことを比べて考える(比較)。
 - 「…だから～」 「なぜかという～」 「それは～」 「ということは～」 など、いくつかの情報をつなげて予想したり、理由を考えたりする(関連付け)。
 - 「一言で言うと」 「つまり～」 「全部をまとめると～」 など、いくつかの情報をまとめて考える(総合)。

③ 社会的事象について考えたことを表現し、理解を深める指導の工夫を行うこと (5年生問5(3)、6年生問7(4))

- 授業の終末に、本時のめあてについての考えを記述させることが大切である。その際、「今日の授業のキーワードを使って書きましょう」「〇字以内で書きましょう」と、キーワードの使用や字数の制限など、記述する条件を示すと更に効果的である。
- 単元の「調べる」過程においても、単元の学習問題について考える場面を取り入れる。「今日の授業で分かったことを基に、学習問題についての自分の考えを書きましょう」と、本時の授業で分かったことと単元の学習問題とを関連付けながら自分の考えを記述させる指導が効果的である。
- 社会的事象について理解を深めていくためには、調べて分かったことや考えたことを交流する場面を設定することが大切である。
- 相手に分かりやすく伝えるように指導することが大切である。「根拠を示して」「事実と考えを区別して」「立場を明確にして」書くように指導する。その際、「なぜなら」「このことから」「Aさんと似ていて(違って)」などの表現を取り入れるように指導すると効果的である。

◎ ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

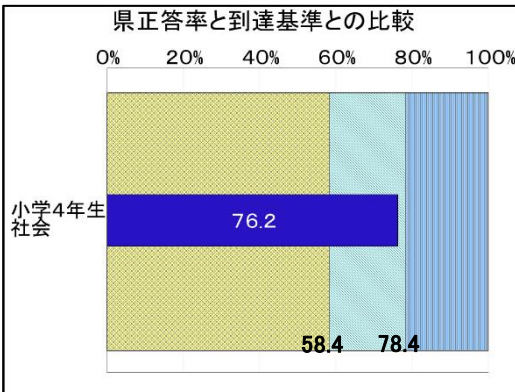
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」を取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「児童と共につくる学習問題」をキーワードにした授業改善策について、Webアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

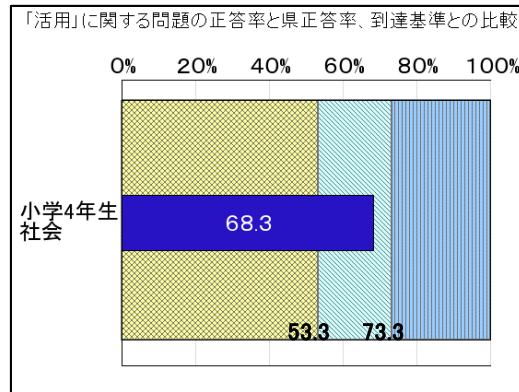
<資料>

① 小学4年生

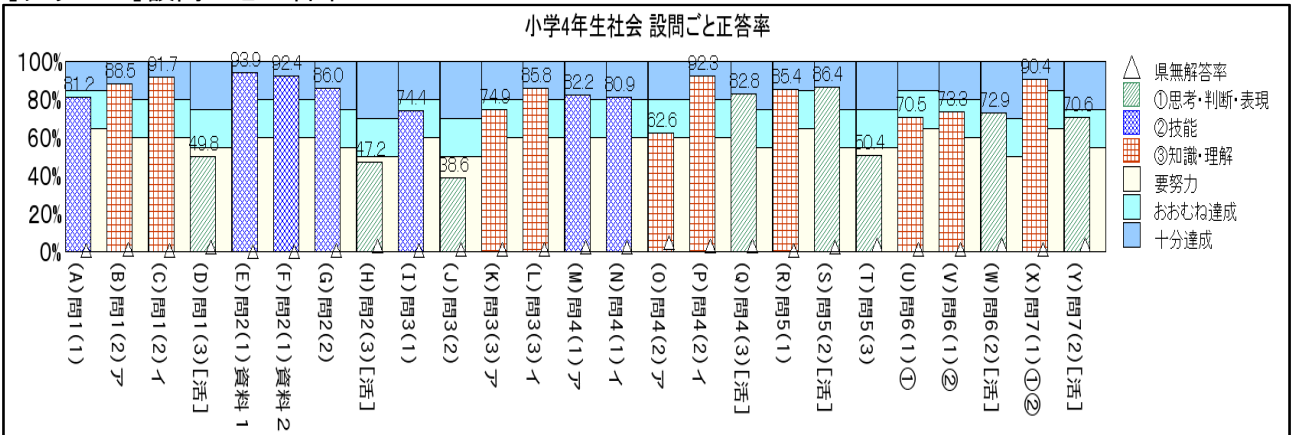
[グラフ1]教科全体正答率



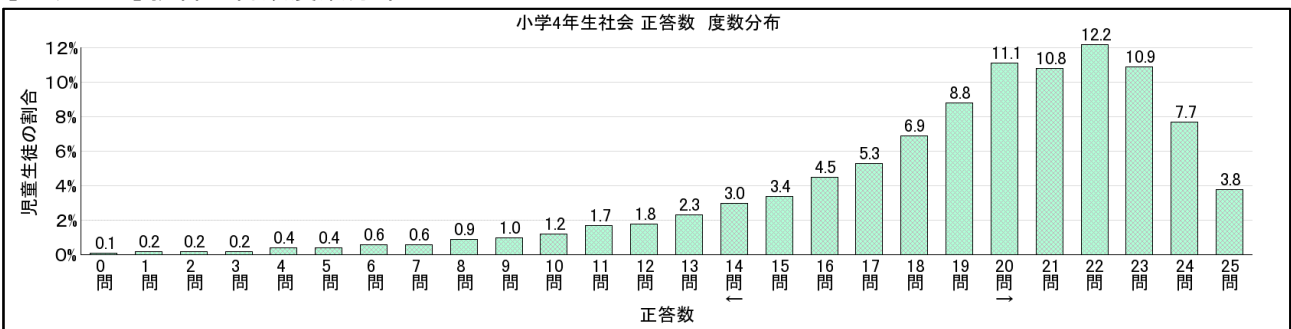
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



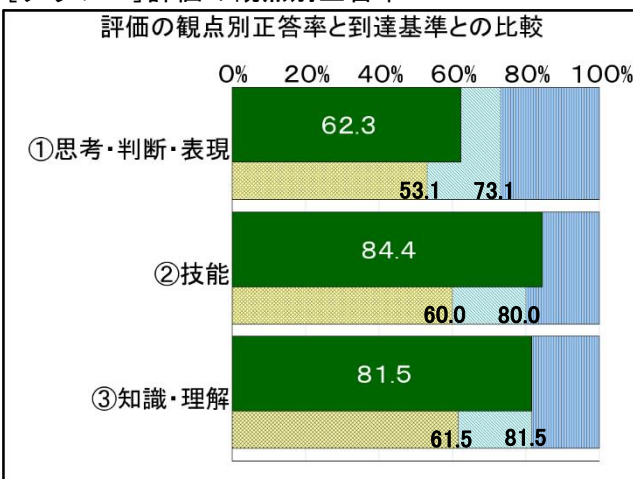
[グラフ3]設問ごと正答率



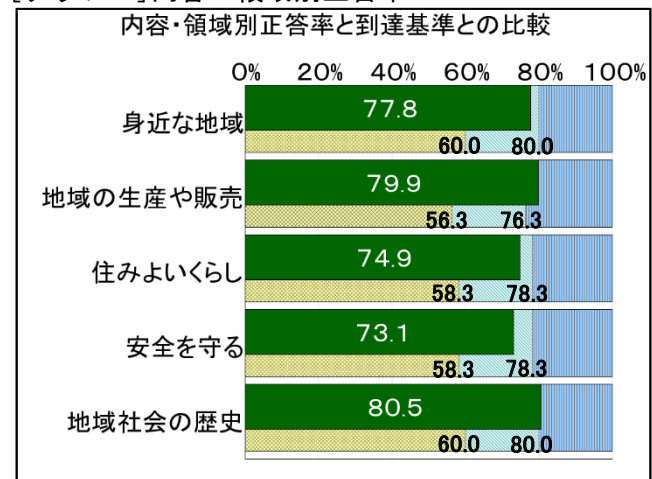
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

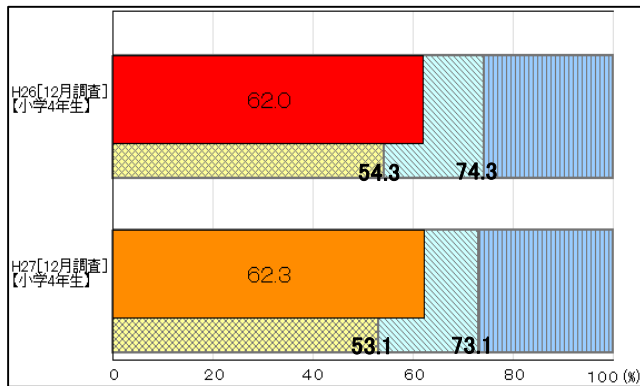


[グラフ6]内容・領域別正答率

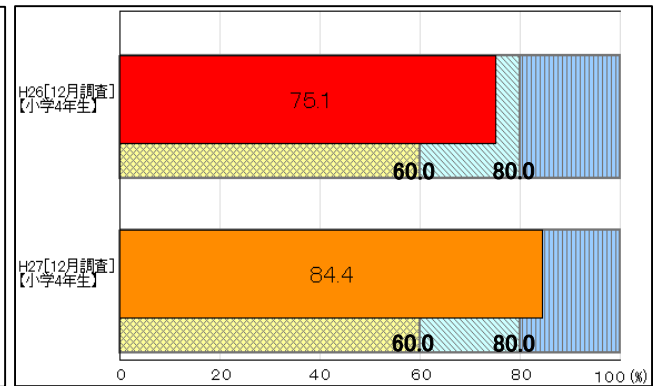


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

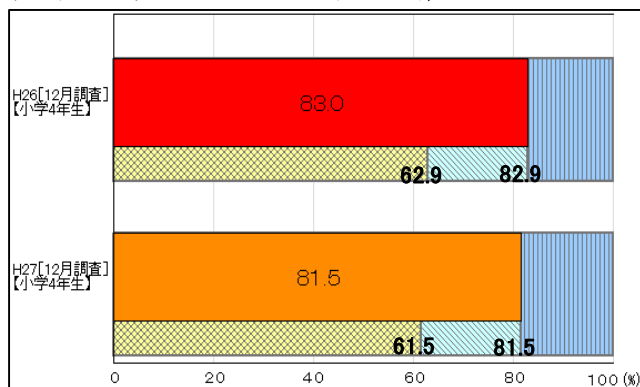
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

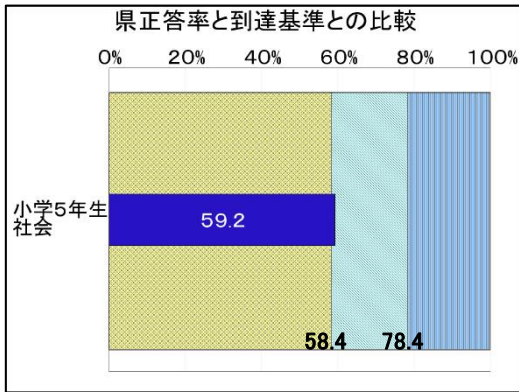


社会的事象についての知識・理解

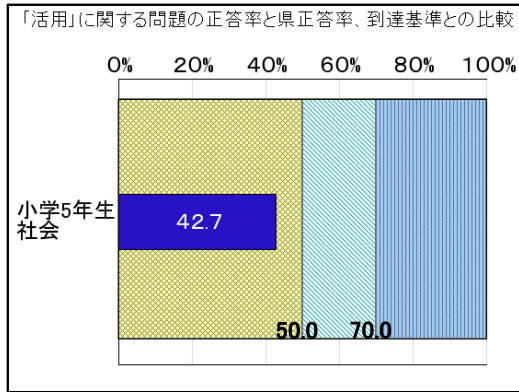


② 小学5年生

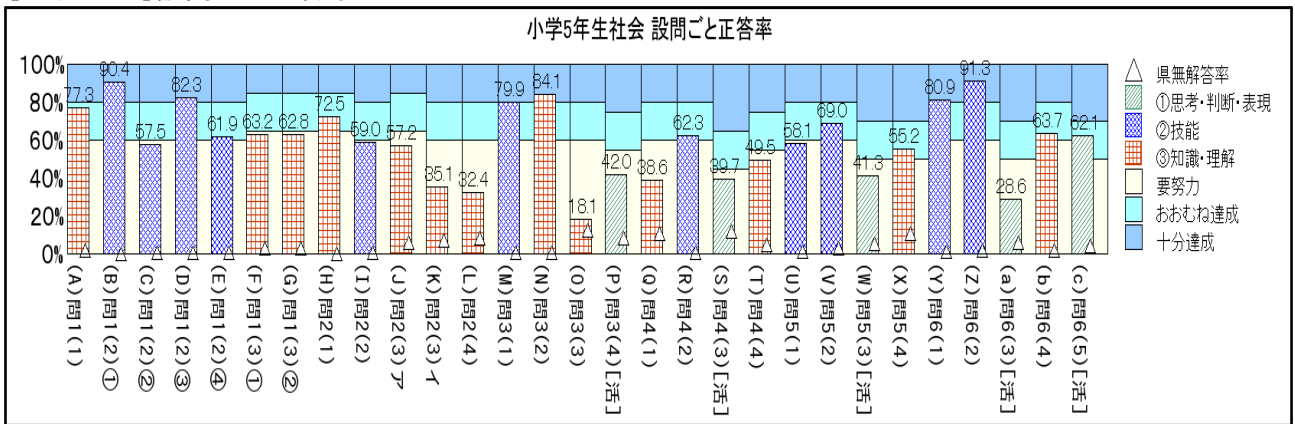
[グラフ8] 教科全体正答率



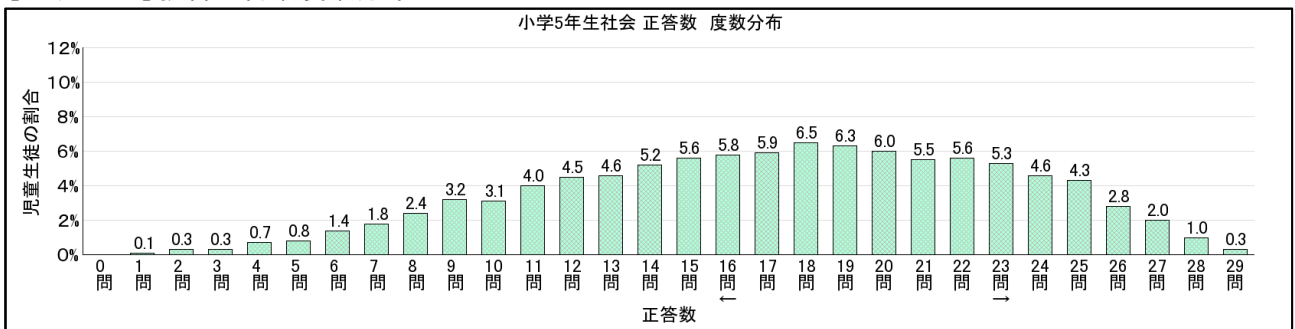
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



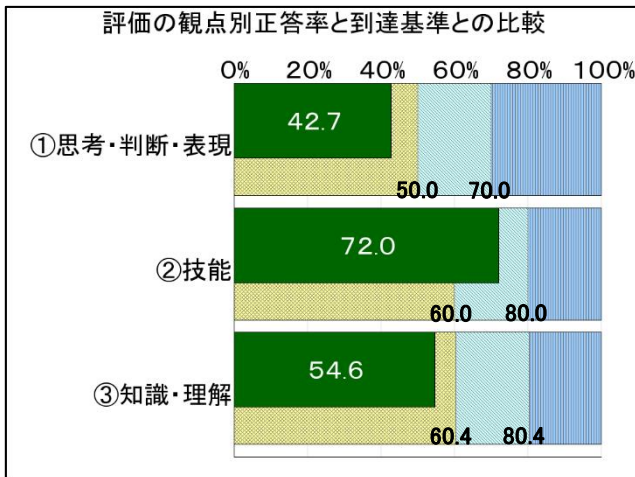
[グラフ10] 設問ごと正答率



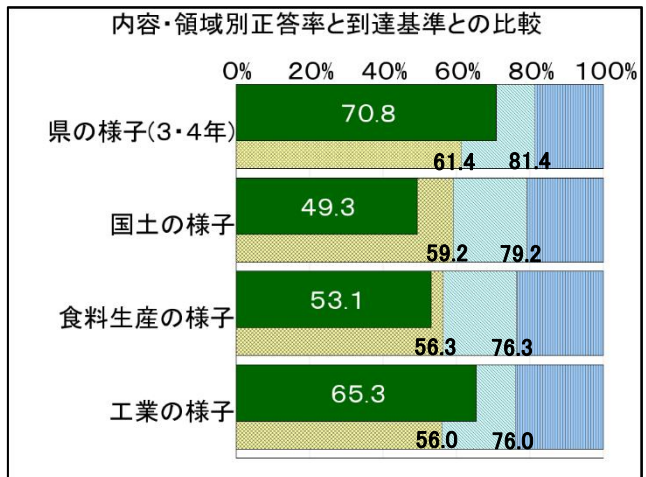
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



[グラフ13] 内容・領域別正答率

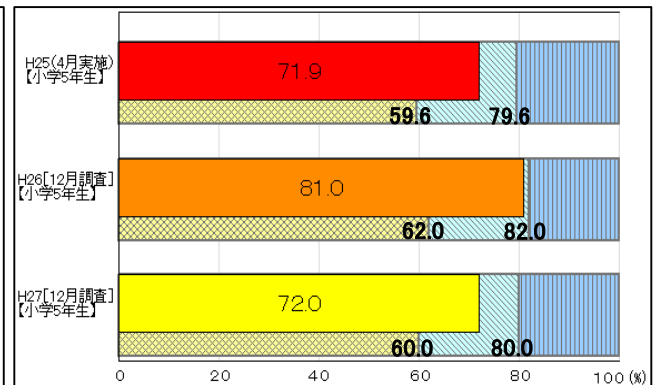
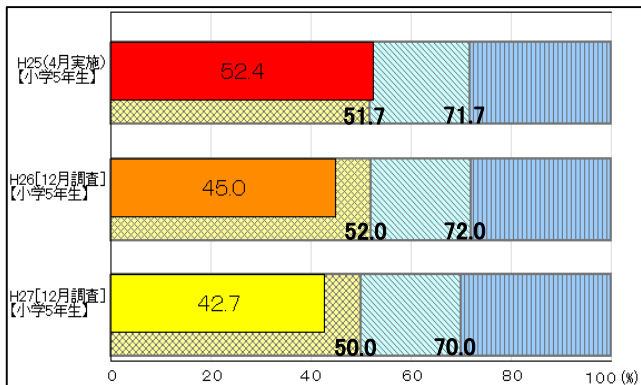


[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

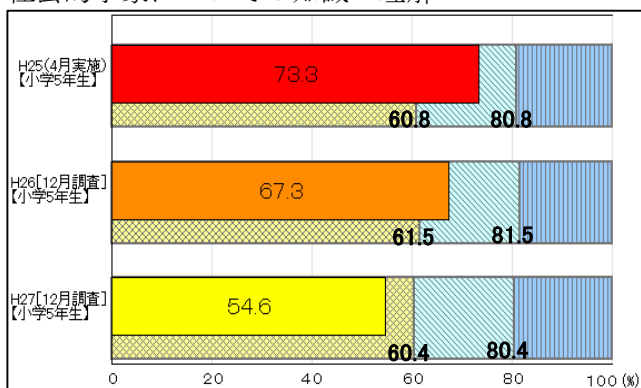
※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、小学 4 年生までの内容で調査。

社会的な思考・判断・表現

観察・資料活用の技能



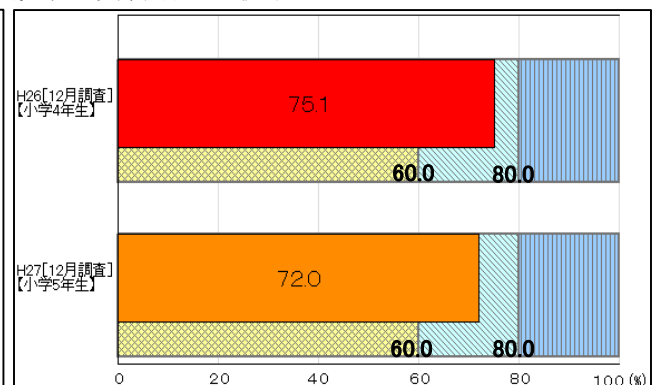
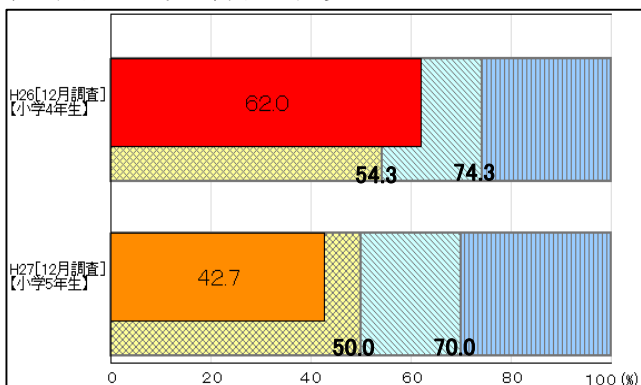
社会的事象についての知識・理解



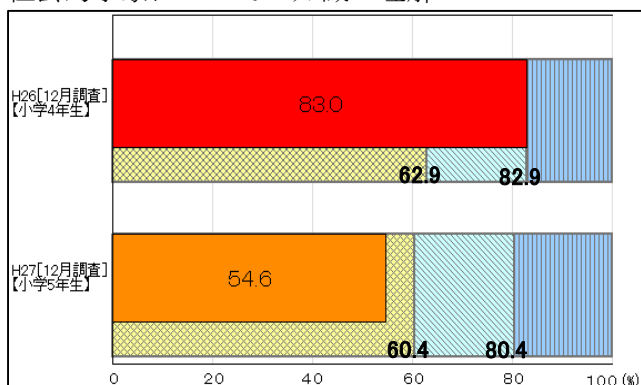
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

社会的な思考・判断・表現

観察・資料活用の技能

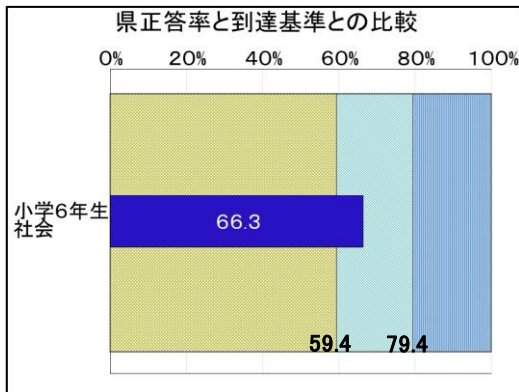


社会的事象についての知識・理解

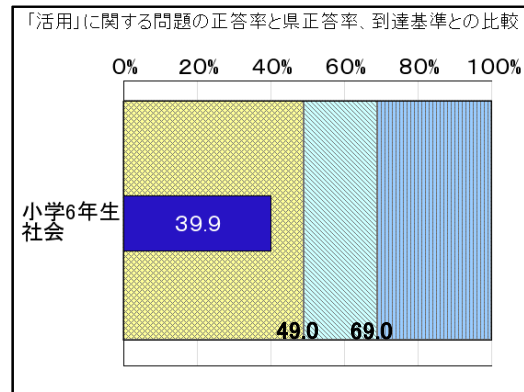


③ 小学6年生

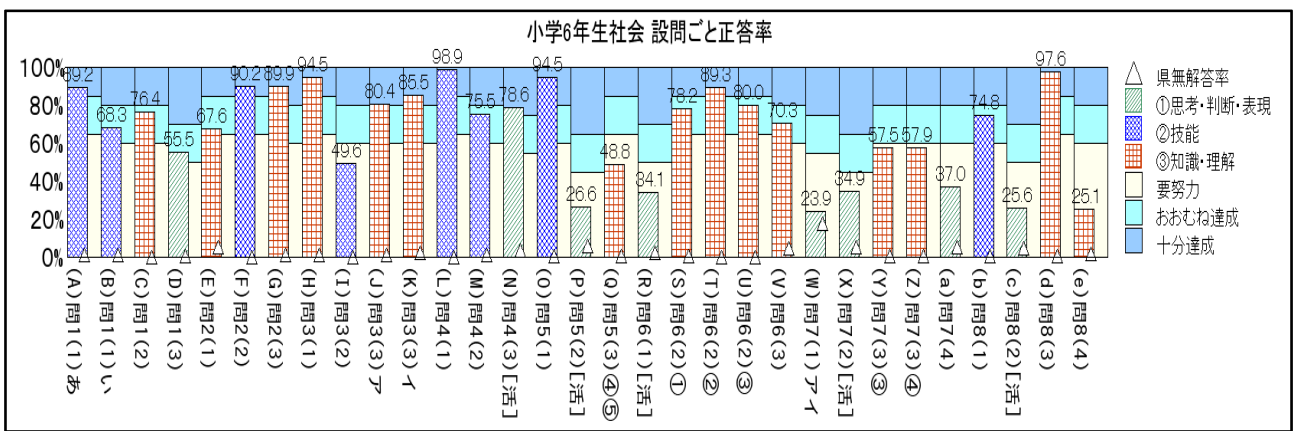
[グラフ16]教科全体正答率



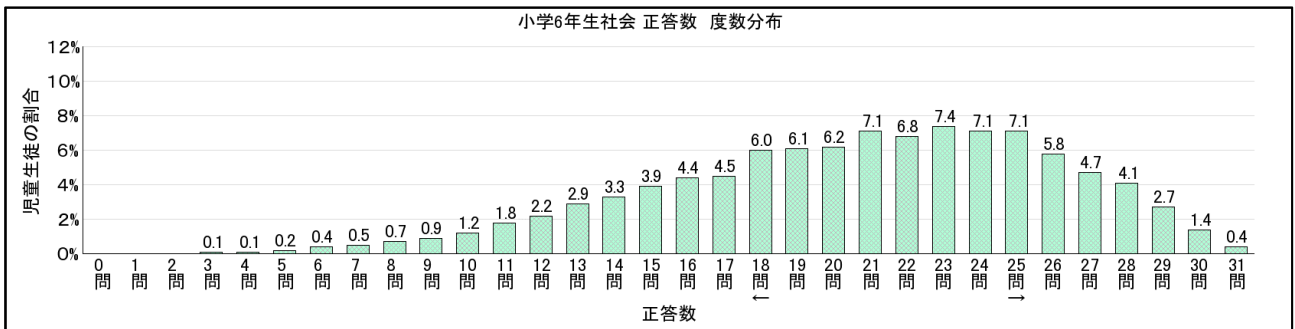
[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



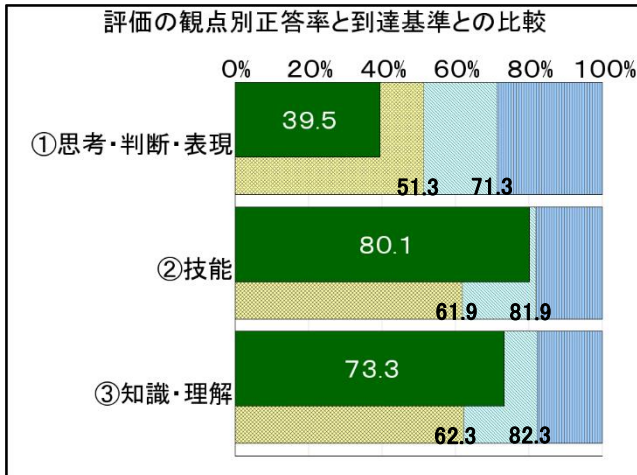
[グラフ18]設問ごと正答率



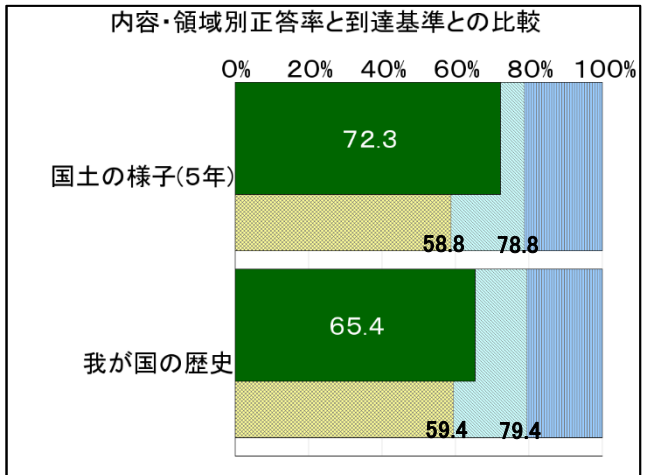
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



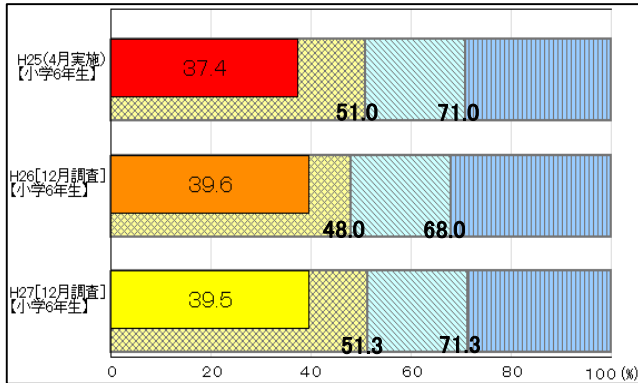
[グラフ21]内容・領域別正答率



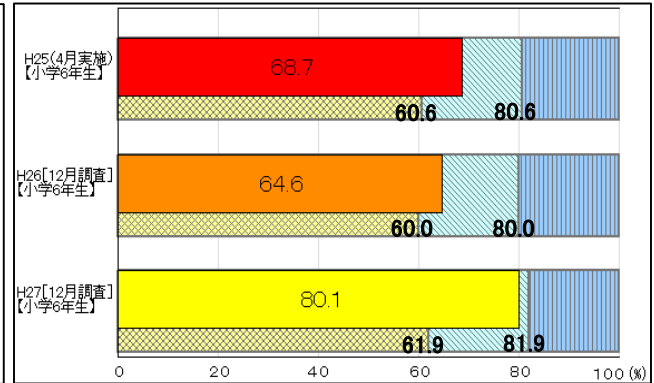
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、小学 5 年生までの内容で調査。

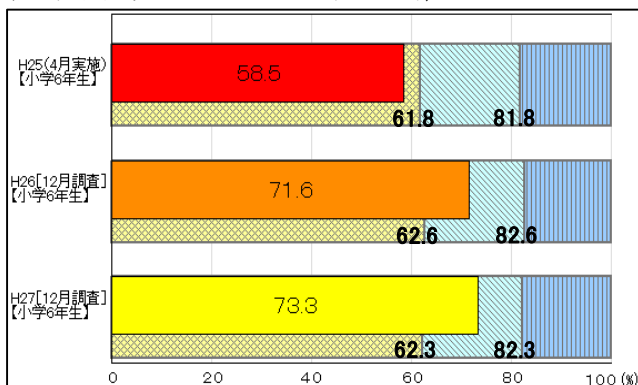
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

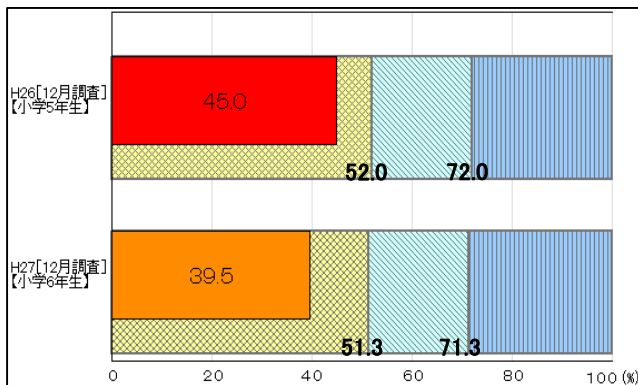


社会的な事象についての知識・理解

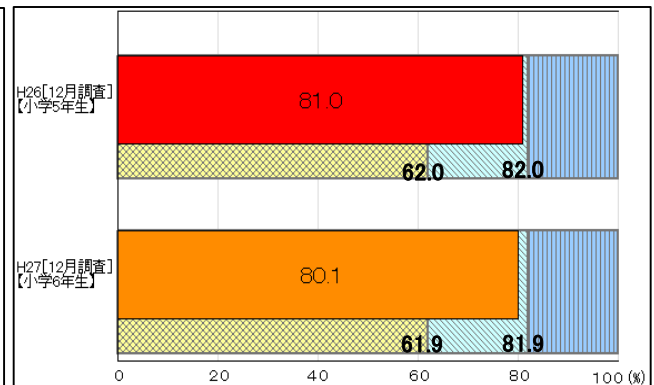


[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

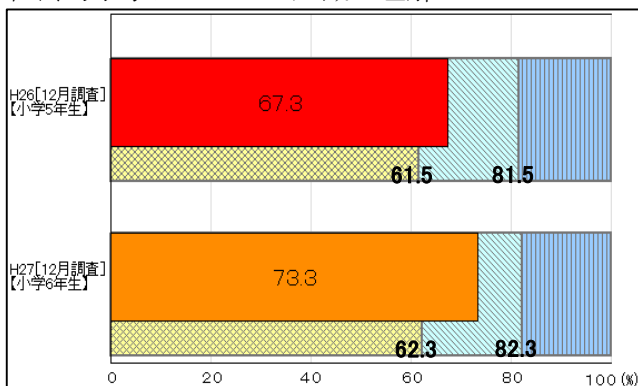
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能



社会的な事象についての知識・理解



2 中学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果 (到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域(アジア)	古代までの日本	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1) オセアニア州の位置と名称を理解している	○				○			○	○			64.3	2.8	75	55	
1	(2) 世界一面積の小さい国が、パチカン市国であることを理解している	○							○	○			75.1	12.3	75	55	◎
1	(3) 資料から、赤道にあるエクアドルの位置を読み取ることができる	○				○			○				59.0	0.7	70	50	
1	(4)① 経度0度の線が本初子午線であることを理解している	○							○	○			72.4	7.7	75	55	
1	(4)② 資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○				○			○	○			53.8	1.2	70	50	
1	(5) 資料から、ユーラシア大陸の位置を読み取ることができる	○				○			○				78.3	0.8	70	50	◎
2	(1) アンデス山脈の位置と名称を理解している		○						○	○			22.6	8.5	75	55	▼
2	(2) 標高の高い地域に住む人々の生活の特色について理解している		○						○	○			38.3	0.6	70	50	▼
2	(3) 乾燥帯の雨温図を読み取ることができる		○						○	○			58.2	0.7	70	50	
2	(4) 世界の宗教の分布と特色を読み取ることができる		○						○	○			79.6	1.0	65	45	◎
2	(5) 資料を基に、高床式の住居になっている理由を、永久凍土と関連付けて説明することができる		○			○				○	○		43.2	9.3	60	40	
3	(1) アジア州を区分した東南アジアについて理解している			○					○	○			81.4	0.5	75	55	◎
3	(2) 季節風について理解している			○					○	○			65.0	0.6	70	50	
3	(3) 資料を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を、気候と農業の特色とを関連付けて説明することができる			○		○				○	○		35.6	16.3	60	40	▼
3	(4) 資料を基に、中国の大気汚染の原因を説明することができる			○		○				○			58.1	8.7	60	40	
3	(5) 資料を基に、タイの産業の変化を考えることができる			○		○			○				87.0	0.9	65	45	◎
4	(1) 資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってこられた理由を説明することができる				○	○				○	○		30.7	11.2	60	40	▼
4	(2) 打製石器が使われた時代が、旧石器時代であることを理解している				○				○	○			50.3	7.9	75	55	▼
4	(3) 土偶が作られた目的について理解している				○				○	○			63.8	1.0	70	50	
4	(4) 青銅器について理解している				○				○	○			53.9	18.4	75	55	▼
4	(5) 資料を基に、古墳時代の日本の様子を考えることができる				○	○			○				70.2	1.4	65	45	◎
4	(6) 進んだ技術や文化を伝えた人々が、渡来人であることを理解している				○				○	○			76.3	8.4	75	55	◎
5	(1)① 平城京があった場所が、現在の奈良県であることを理解している				○				○	○			49.7	5.9	75	55	▼
5	(1)② 墾田永年私財法が制定された後の社会の変化について理解している				○				○	○			45.3	1.7	70	50	▼
5	(2) 中大兄皇子が行った政治改革が、大化の改新であることを理解している				○				○	○			65.9	15.7	75	55	
5	(3) 天皇が幼少や女性のときに天皇に変わって政治を行う役職が、摂政であることを理解している				○				○	○			76.5	1.4	70	50	◎
5	(4) 冠位十二階が、才能ある人物を役人として登用する目的であることを理解している				○				○	○			63.5	2.0	70	50	
5	(5) 古代の政治の流れについて理解している				○				○	○			34.1	2.1	70	50	▼
6	(1) 弥生時代を代表する遺跡である吉野ヶ里遺跡について理解している				○				○	○			64.5	1.3	70	50	
6	(2) 法隆寺について理解している				○				○	○			55.0	12.7	75	55	
6	(3) はにわについて理解している				○				○	○			74.3	8.7	75	55	
6	(4) 仮名文字について理解している				○				○	○			72.5	8.7	75	55	
6	(5) 原始・古代の生活や文化の流れについて理解している				○				○	○			69.5	2.5	70	50	

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点		問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	世界と比べた日本の地域的特色	中世の日本	近世の日本	社会的な思考・判断・表現	資料活用・技能	社会的事象についての知識・理解	選択式						
1	(1)①	ブラジルの公用語が、ポルトガル語であることを理解している	○					○	○			48.9	0.5	75	55	▼
1	(1)②	アマゾン川の名称と位置を理解している	○					○		○		66.6	5.5	75	55	
1	(1)③	ブラジルでは、さとうきびの栽培が行われていることを理解している	○					○		○		65.9	10.2	70	50	
1	(1)④	熱帯の雨温図を読み取ることができる	○					○		○		66.6	1.1	70	50	
1	(2)①	オーストラリアで進んでいる多文化社会について理解している	○					○		○		18.0	25.0	70	50	▼
1	(2)②	資料から、オーストラリアの他地域との結び付きの変化を読み取ることができる	○					○		○		27.4	1.8	70	50	▼
2	(1)①	経度の違いから、時差を求めることができる	○					○		○		29.7	20.3	65	45	▼
2	(1)②	日本と世界各地との位置関係を理解し、日本との時差が一番小さい国を考えることができる	○					○		○		55.2	3.4	60	40	
2	(2)	日本の防災対策として、ハザードマップを作成していることを理解している		○					○	○		70.8	10.9	70	50	◎
2	(3)	資料から、インドと比較した日本の人口構成の特徴を読み取ることができる		○					○	○		89.0	1.3	70	50	◎
3	(1)	筑後川の名称と位置を理解している			○				○	○		75.2	10.8	75	55	◎
3	(2)	促成栽培について理解している			○				○	○		82.8	5.4	70	50	◎
3	(3)	北九州市の環境への取組について理解している			○				○	○		66.3	16.8	70	50	
3	(4)	資料から、火山の近くに多く分布している発電所が、地熱発電であることを読み取ることができる			○				○	○		60.1	4.9	70	50	
3	(5)	資料を基に、九州地方の南部で行われている農業の特徴を、シラスと関連付けて説明することができる			○			○		○	○	44.2	19.4	55	35	
4	(1)	時代区分の「中世」について理解している				○			○	○		69.7	1.1	70	50	
4	(2)	武士として初めて政権を握った人物が、平清盛であることを理解している				○			○	○		47.4	18.8	70	50	▼
4	(3)	将軍と御家人との関係が、御恩と奉公であることを理解している				○			○	○		35.7	16.7	70	50	▼
4	(4)	承久の乱が幕府に与えた影響について理解している				○			○	○		46.8	1.6	70	50	▼
4	(5)	元寇での元軍と幕府軍との戦いの様子について理解している				○			○	○		73.6	2.1	70	50	◎
4	(6)	資料を基に、技術面の進歩により、農業生産が高まった理由を説明することができる				○		○			○	41.3	20.0	60	40	
4	(7)	鎌倉時代の仏教について理解している				○			○	○		32.3	2.0	70	50	▼
5	(1)	ヨーロッパ人がアジアに進出した背景について理解している					○			○		46.4	1.4	75	55	▼
5	(2)①	豊田秀吉について理解している					○			○		59.2	15.4	75	55	
5	(2)②	兵農分離について理解している					○			○		41.3	22.7	70	50	▼
5	(2)③	朝鮮出兵のための城が、現在の佐賀県に築かれたことを理解している					○			○		33.7	13.0	70	50	▼
5	(3)	資料から、安土・桃山文化の特色を読み取ることができる					○		○	○		42.8	2.4	70	50	▼
5	(4)	資料を基に、参勤交代が大名に与えた影響を説明することができる					○	○			○	44.6	19.2	60	40	
6	(1)	資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由を説明することができる					○	○			○	24.1	21.2	55	35	▼
6	(2)	公事方御定書について理解している					○			○		68.5	1.9	70	50	
6	(3)	江戸時代の産業の発展に大きく関わっていた株仲間について理解している					○			○		59.6	15.9	70	50	
6	(4)	寛政の改革について理解している					○			○		52.6	2.0	70	50	
6	(5)	百姓一揆や打ちこわしについて理解している					○			○		74.5	1.7	70	50	◎

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、()内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ8]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点別正答率は、全ての評価の観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。平成26年度[12月調査]において課題として挙げられていた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的な事象についての知識・理解」については、改善が見られる。[グラフ5、グラフ7、グラフ12、グラフ14]
- 中学1年生及び中学2年生の「活用」に関する問題の正答率は、「おおむね達成」の基準を下回っており、資料から適切な情報を読み取ったり社会的な事象の意味や意義を解釈したりしたことを、条件に合わせて説明することに課題が見られる。[グラフ2、グラフ9]

② 中学1年生

- 内容・領域別正答率については、歴史的な分野の内容・領域「古代までの日本」において、平成26年度[12月調査]では「おおむね達成」の基準を下回っていたが、平成27年度[12月調査]の正答率は59.8で、「おおむね達成」の基準51.5を8.3ポイント上回っており、改善が見られる。[グラフ6]
- 評価の観点別正答率については、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年で経年比較をすると、全ての評価の観点で平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ7]
- 「活用」に関する問題の正答率は36.5で、「おおむね達成」の基準40.0を3.5ポイント下回っており、「資料を基に、社会的な事象の特色や事象間を関連付けて説明すること」「資料を基に、社会的な事象の意味や意義を解釈し、理由を説明すること」を問う設問で課題が見られる。[表1、グラフ2] (1年生問3(3)、問4(1))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問3 (3)	資料を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を、気候と農業の特色とを関連付けて説明することができる (記述式)	移動式住居と農業の様子、ウランバートルと東京の雨温図を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を条件に合わせて説明する。	35.6	16.3	60.0	40.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
設問に示してある雨温図や写真から、雨が少なく乾燥しているモンゴルの気候の特徴と家畜とともに水や草を求めて移動する遊牧の特徴を読み取り、関連付けて考えることや条件に合わせて適切に説明することができなかつたと考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
アジア州の各地域の気候や生活(衣食住)の特色について、雨温図や写真などから読み取らせ、表にまとめさせる。次に、表にまとめた各地域の特色に着目させ、資料から読み取っ

たことを基に、共通点や相違点について考えさせる。その際、自然的条件や社会的条件と関連付けながら考えさせることで、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問4 (1)	資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってくる理由を説明することができる (記述式)	2万年前の日本列島と海面の変化の資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってくる理由を条件に合わせて説明する。	30.7	11.2	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある資料や写真から、当時の日本列島が氷河時代（氷期）であったことや気候が寒冷であったこと、そして、現在よりも海面が下がっていて、大陸と日本列島が陸続きになっていたことを読み取り、大型動物を追って、人々が日本に渡ってくる理由を、条件に合わせて適切に説明することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

教科書などに掲載されている資料や写真から、今から2万年前の氷河時代（氷期）は、現在と異なり、海面が100mほど低く、陸地となっていたことや当時の人々が、狩猟や採集を中心とした移動生活を行っていたことを読み取らせる。その際、今から1万年前に氷河時代（氷期）が終わり、海面の上昇にともない、現在の日本列島が形成されたことについて読み取らせておくことも大切である。これらの読み取ったことを基に、移動生活をしていた人々が、大陸と陸続きになっていた日本にも獲物となる大型動物を追って、北方や南方から渡ってきたことを考えさせることが大切である。

③ 中学2年生

○ 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「世界と比べた日本の地域的特色」において、正答率は79.9で、「十分達成」の基準70.0を9.9ポイント上回っている。

[グラフ13]

○ 評価の観点別正答率については、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年や同一生徒で経年比較をすると、評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」で平成26年度[12月調査]より上回っており、改善が見られる。[グラフ14、グラフ15]

● 地理的分野の内容・領域「世界の諸地域」では、6問中3問で「おおむね達成」の基準を下回っている。特に、「オーストラリアで進んでいる多文化社会についての理解」を問う設問の正答率は18.0で、「おおむね達成」の基準50.0を32.0ポイント下回っており、課題が見られる。[表2]（2年生問1(2)①）

● 「活用」に関する問題の「資料を基に、社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明すること」を問う設問の正答率は24.1で、「おおむね達成」の基準35.0を10.9ポイント下回っており、課題が見られる。[表2]（2年生問6(1)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問1 (2)①	オーストラリアで進んでいる多文化社会について理解している (短答式)	他の国の様々な文化や生活習慣を尊重し、共存を目指す「多文化社会」を答える。	18.0	25.0	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある説明や写真から、他の国や他の民族の文化、生活習慣を尊重し、共存を図ろうとする多文化社会がどのような社会であるのか、また、どのような社会的な背景の基に形成されていったのかを理解できていなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「なぜオーストラリアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まったのだろう」という課題を設定するなどして、オーストラリアの原住民であるアボリジニー(アボリジニ)の生活や他地域からの移民の受け入れ、オーストラリアの貿易相手国の変化などについて資料や写真などから考えさせる。このような課題を解決する活動を通して、アジア諸国との結び付きを強めたオーストラリアで、多文化社会が進んでいる背景を理解させることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問6 (1)	資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由を説明することができる (記述式)	江戸時代の商品流通のしくみと大阪の港のにぎわいの資料を基に、大阪が経済の中心として繁栄した理由を説明する。	24.1	21.2	55.0	35.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある資料から、大阪に全国の藩から米(年貢米)や特産物、生活物資などが運ばれ、貨幣と交換されたり、売買されたりしていたことや、各藩の蔵屋敷が置かれ、船便の往来が盛んだったことを読み取り、大阪が経済の中心として繁栄していた理由を適切に説明することができなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「三都の発展は、産業の発達や交通の整備とどのような関係があるのだろうか」という課題を設定するなどして、資料から、「江戸時代にどのような交通網があったか」について調べさせる。教科書などに掲載されている資料や写真を用いて、江戸を起点とする五街道などの陸上交通だけでなく、西廻り航路や東廻り航路などの海上航路が開かれていたことや江戸と大坂の間には、菱垣廻船や樽廻船などの定期船が往来する海上交通が整備されていたことを読み取らせる。次に、「当時、三都がどのような役割を担っていたのか」について調べ、三都の役割を政治・経済・文化の中心という面から比較させることが大切である。これらの活動を通して、交通網の発達が発展や物資の運搬に大きな役割を果たしていたことを確認させる。そして、当時の大阪が物流の拠点となっていたことと関連させながら、全国から米(年貢米)や特産品などが集まり、これらが売買される大商業都市であったことを捉えさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 基礎的・基本的な知識、概念を習得させ、活用させること（2年生問1(2)①）

- ・ 授業の導入段階で学習のめあてとともに、習得させる知識、概念をキーワードとして提示したりすることで習得させる知識、概念を明確にする。
- ・ 単元や授業の前後に小テストを実施するなどして、重要語句の一問一答形式の反復的な学習を設定するだけでなく、単元や授業のまとめの際に、その語句に関する社会的事象の関係性などを見付けさせ、習得した知識や概念を活用しながら説明させたり、レポートにまとめさせたりするなどの表現活動を行う。
- ・ 生徒の主体的な学習を促し、適切な課題の設定や課題を追究する調査活動、表現活動を行い、習得した知識や概念を繰り返し活用させる学習に取り組ませる。具体的には、作業的・体験的な学習からつかんだ事実や地図、新聞、読み物、統計などの資料から読み取った情報を基に、社会的事象の関連性を考えさせたり、説明させたりすることで、知識や概念の習得や定着を図る。

② 思考力、判断力、表現力を育む言語活動を充実させること

（1年生問3(3)、1年生問4(1)、2年生問6(1)）

- ・ 社会的事象の意味・意義を解釈したり、事象の特色や関連を説明したりする活動など、言語を使って考え、判断し、表現するという言語活動の充実が必要である。
 地理的分野では、世界の様々な地域の調査や身近な地域の調査において、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の考えを論述したり、意見を交換したりする学習に取り組ませる。
 歴史的分野では、学習した内容を活用してその時代を大観し、言葉や図で説明する活動や各時代の特色や時代の転換の様子を捉える学習を通して、自分の言葉でまとめたことを説明したり、論述したり、意見を交換したりする学習に取り組ませる。
 公民的分野では、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象を捉えさせる。そして、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりする学習に取り組ませる。
- ・ 授業の中で、一問一答で重要語句を答えさせるような発問だけでなく、キーワードや資料を使い、事象の特色や事象間の関連を説明させる発問を行う。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

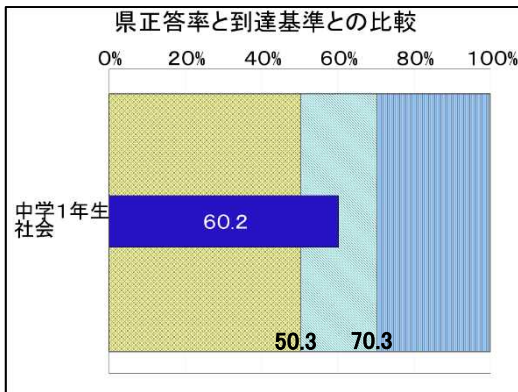
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」などを取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ社会的な思考力・判断力・表現力を育成し、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けさせるための授業改善について、Web アップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

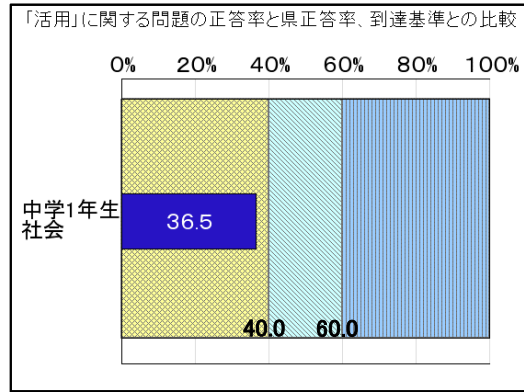
<資料>

① 中学1年生

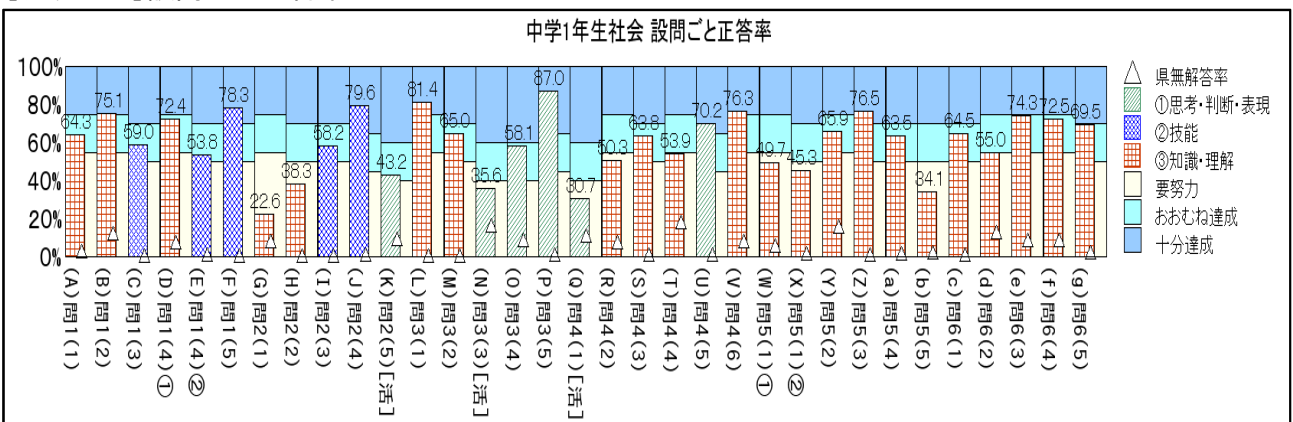
[グラフ1]教科全体正答率



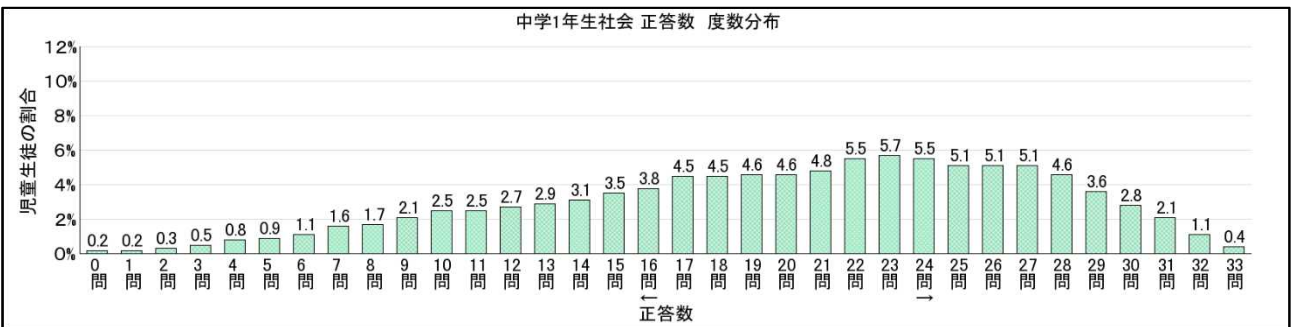
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



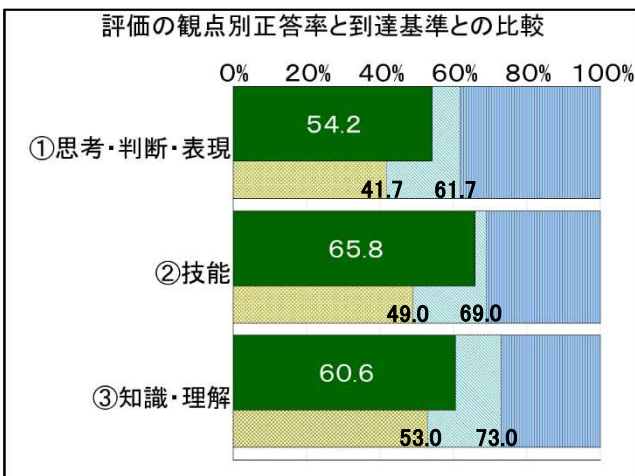
[グラフ3]設問ごと正答率



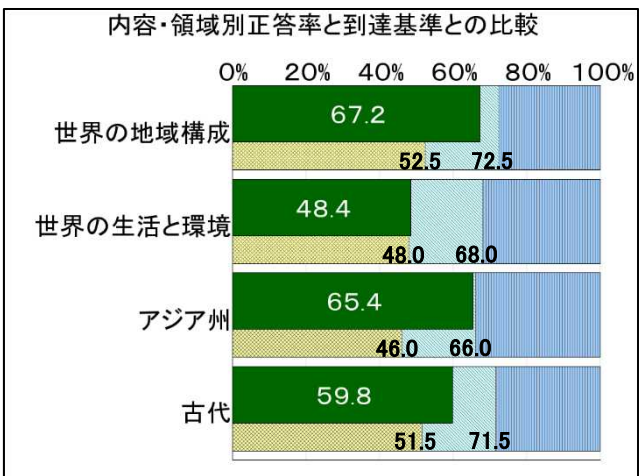
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率



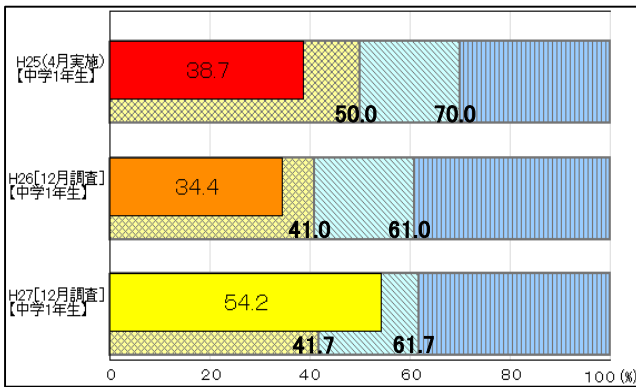
[グラフ6]内容・領域別正答率



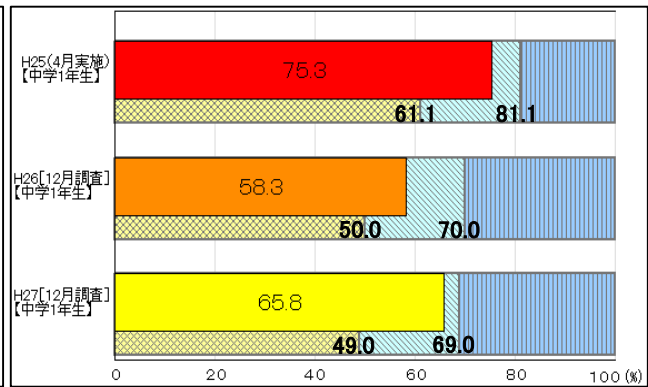
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。

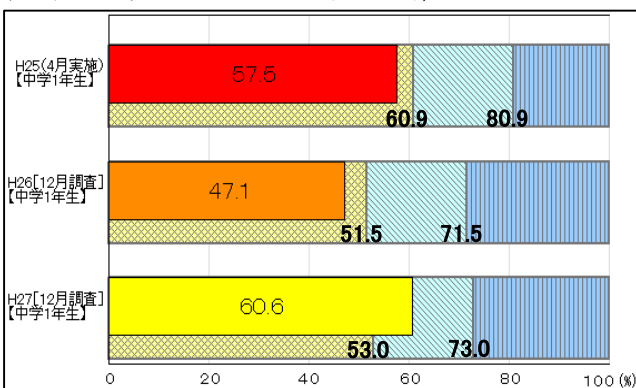
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

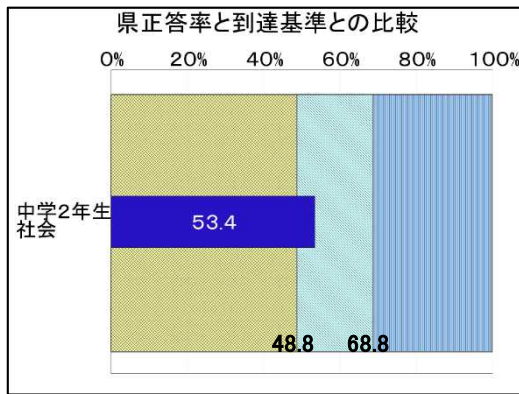


社会的事象についての知識・理解

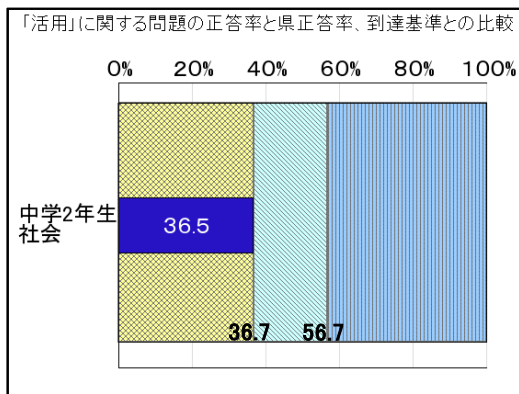


② 中学2年生

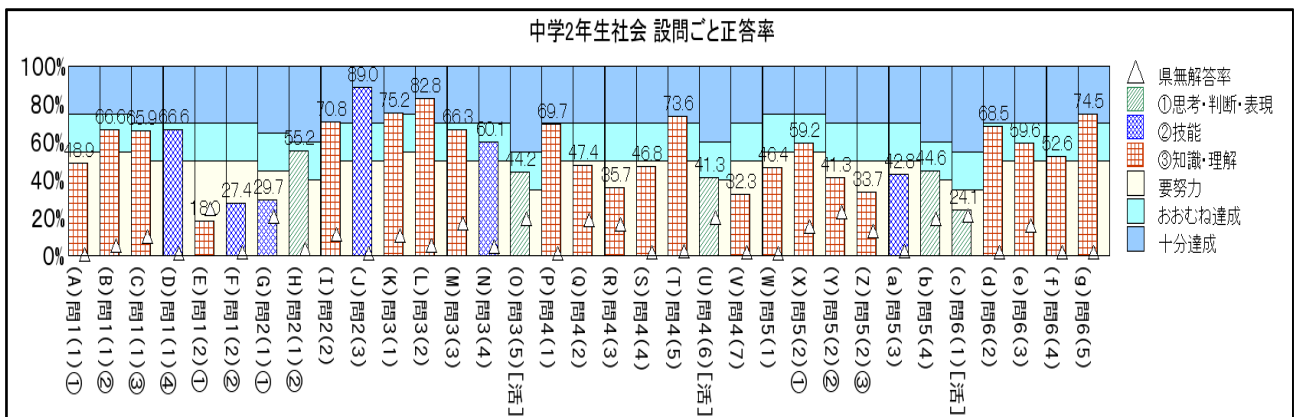
[グラフ8] 教科全体正答率



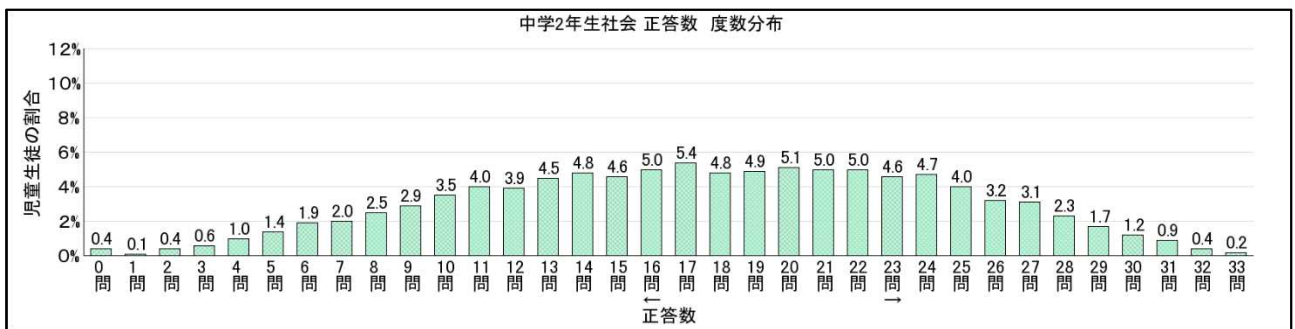
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



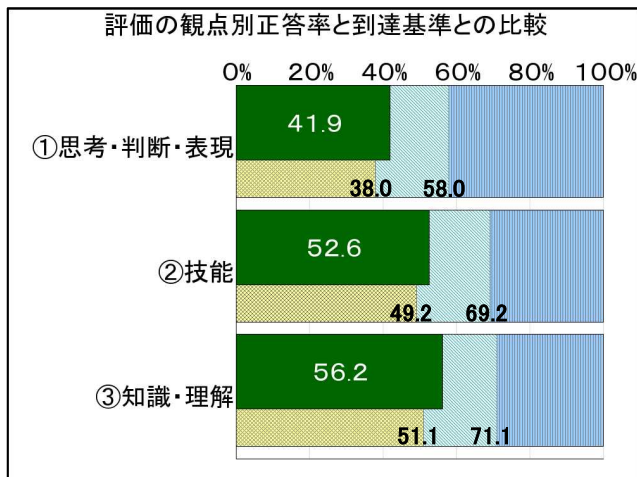
[グラフ10] 設問ごと正答率



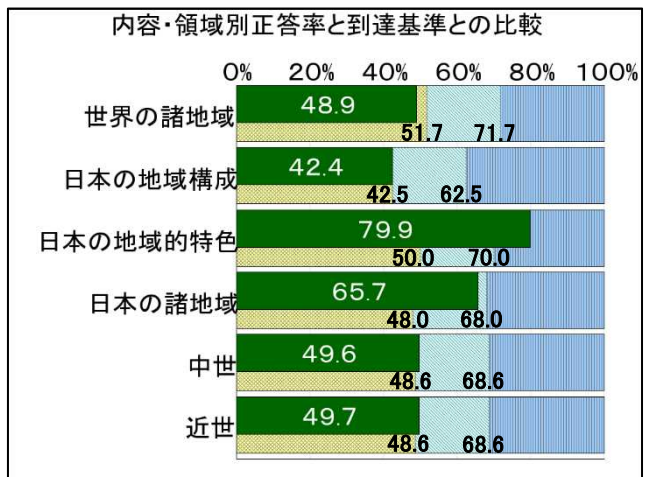
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 観点別正答率



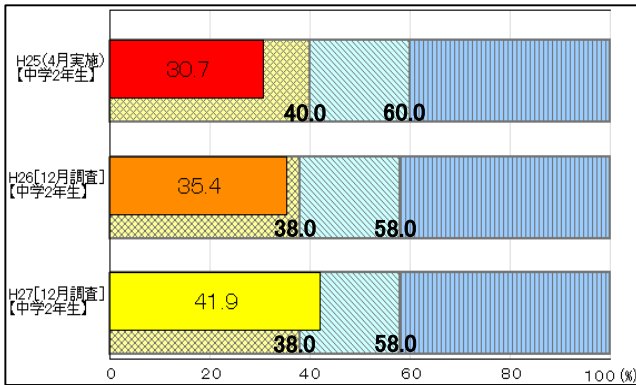
[グラフ13] 内容・領域別正答率



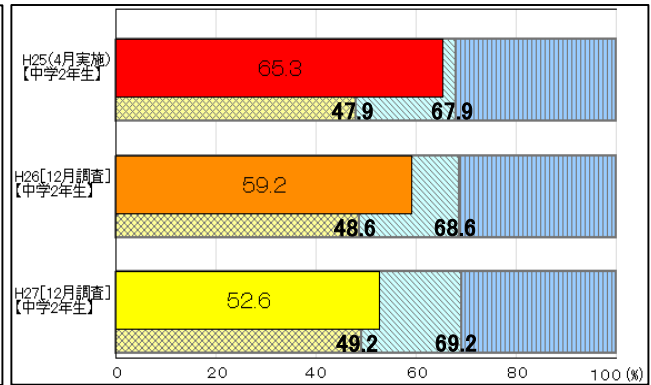
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、中学 1 年生までの内容で調査。

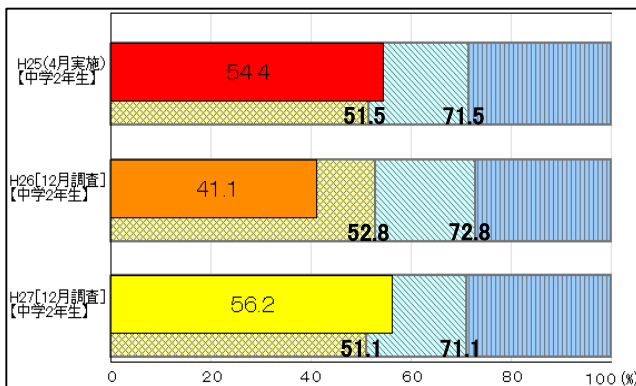
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

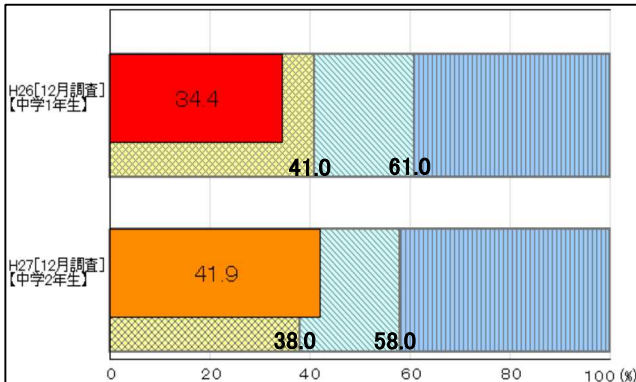


社会的事象についての知識・理解

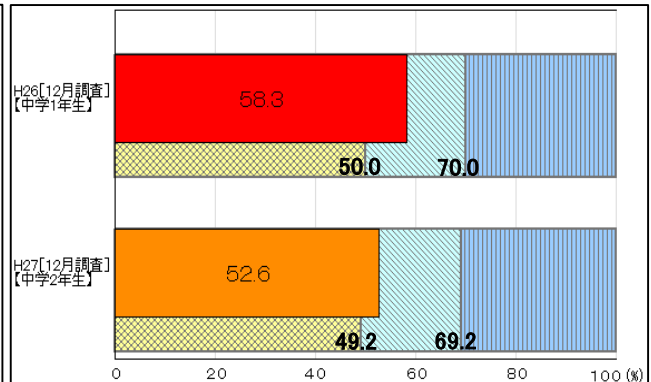


[グラフ 15] 評価の観点別正答率 (同一生徒)

社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解

